

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス豊見城教室別館		
○保護者評価実施期間	2026年2月5日		2026/2/31
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2026年2月5日		2026/2/31
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童が安心して通所できる環境づくりと、活動の様子を丁寧に伝える取り組みを行っている。	送迎時の申し送りやLINE、ブログ等を活用し、日々の活動の様子を保護者様へ分かりやすく伝えるようにしています。また、写真掲載の際には個人情報に配慮しながら、活動の様子が偏らないよう工夫しています。	活動内容や外出予定等について、事前に分かりやすく伝えるなど、情報発信の内容や方法についてさらに工夫していきます。
2	利用児童一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援を、多職種で連携しながら行っている。	作業療法士、理学療法士、保育士、児童指導員などが連携し、支援開始前後の打ち合わせや日々の記録を通して情報共有を行い、個別支援計画に沿った支援を行っています。	支援目標や計画内容について、職員全体でより共有しやすい仕組みを整え、支援の質の向上につなげていきます。
3	活動内容を工夫し、利用児童が楽しみながら参加できる支援を行っている。	運動療育だけでなく、感覚遊びや個別課題、イベント活動などを取り入れ、活動が固定化しないよう工夫しています。また、利用児童の興味関心を日々の関わりの中から把握し、活動内容に反映しています。	利用児童の興味やニーズをより丁寧に把握し、個別活動と集団活動のバランスを取りながら、より満足度の高い活動を提供していきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援や保護者同士の交流機会が十分に周知されていない、または機会が限られている。	相談対応や面談は随時行っているものの、その機会について十分に周知できていない場合があります。また、交流の機会についても参加しやすい形での実施方法が課題となっています。	相談や面談が可能であることをLINE等で定期的に周知するとともに、保護者様のニーズを踏まえながら、参加しやすい形での情報交換や交流の機会について検討していきます。
2	地域との交流や関係機関との連携の機会をさらに充実させる必要がある。	公園活動や地域イベントへの参加などの機会はあるものの、事業所として計画的に交流の場を設ける機会が十分とはいえない状況があります。	利用児童の状況に配慮しながら、地域の活動への参加や交流の機会について計画的に検討していきます。
3	職員間の情報共有や研修機会をさらに充実させる必要がある。	ミーティングの時間が十分に確保できない場合や、研修の受講状況にばらつきがあることが課題として挙げられています。	業務分担の見直しや共有方法の工夫を行い、全職員が支援内容を共有しやすい体制づくりを進めるとともに、研修の機会を確保していきます。